

矢掛町の取り組み事例

岡山県との連携による少子化対策事業の取組

矢掛町役場 こどもみらい課
社会福祉士 長代 沙織

岡山県 矢掛町の概要

ほどよい田舎で住みやすい！歴史ある街並みと自然が溢れる町



やかつび

総面積

90.62km²

総人口

13,273人 (R6.1.1)

世帯数

5,494世帯 (R6.1.1)

合計特殊出生率

1.59

未婚率
(25~39歳)

男性 **52.4 %** 女性 **38.9 %** (R4)

有配偶出生率
(15~49歳)

77.4%

特徴

岡山県の南西部に位置。旧山陽道の宿場町で、昔ながらの街並みが残っている。近年は観光にも力を入れており、イベント等では観光客の賑わいをみせている。



地域が抱える課題と参加した背景

矢掛町が抱える課題

- 出生数が年々減少し少子高齢化が急速に進行
- 町内に出会いの場が無く、若者も少ない為婚姻数が少ない
- 子どもの数が減ったことにより、子育てで孤立感を抱えている家庭が増加している
- 昔ながらの考えが根強く、今の育児への理解が無い
- 子育て支援＝金 ⇒ 場所・物・人の子育て支援が無い

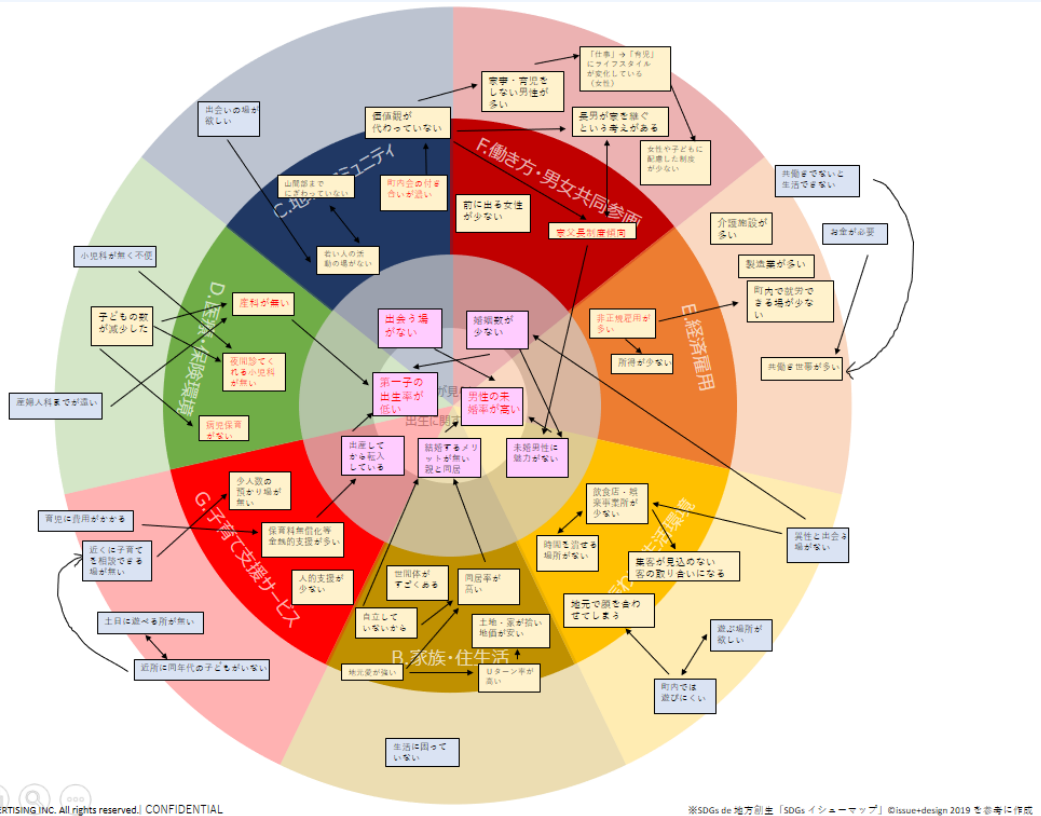


参加 目的

担当業務で、子どもや保護者からの相談を受ける事が多いが、相談を受けても紹介できる社会資源が町内に無い。新しい事業を行うためには、財源が必要…。バックアップ事業に参加する事で、少子化対策と合わせた子育て支援制度の検討ができると考えたため。

見えてきた地域の現状

- ・男性の未婚率が高く、親との同居率が高い
- ・町内で出会いの場が無い
- ・第1子の出生率が低いが第2子・第3子の出生率が高い
→他市町村で第一子を出産後に、子育て支援を求めて矢掛町に転入している
- ・昔ながらの考え方が根強い、家父長制
→男は外で仕事・女は家事育児をする
世間体強い・「ふうがわりい」
- ・子育てにおける人的支援が少ない
- ・妊娠期～子育て期の医療体制の不足
→町内に産科・病児保育・夜間対応の小児科が無い



※SDGs 地方創生「SDGs イシューマップ」©Issue+design 2019 各自治体に作成

着目した地域課題

第1子の出生率は低いが、第2子・第3子の出生率が高い。

目指すべき地域の状態

課題のある第1子ではなく、強みのある第2子第3子以上の出生率を伸ばしていく。

解決を目指す出生に関する指標

第一子の出生率が、県・全国平均を大きく下回っている。

その課題に着目した理由

町内に産科が無い為、第1子の出生率を伸ばしていくには課題が多い状況。現状育児をしている方の不満や要望等の声を聴き、もう1人安心して埋めると思ってもらうための支援のありかたを検討することで、子どもの人数を増やす事ができると考えたため。

調査設計

設定した探索の問い

安心して子どもを産んでもらうにはどのような子育て支援が必要か。

調査方法

グループインタビュー

調査対象者

矢掛町内で子ども1人以上育てている男女

※転入者・地元民, 男性・女性それぞれに調査

主な聴取項目

■子育ての実態について

- ・子どもとの過ごし方
- ・子育てをしていて嬉しい瞬間
- ・子育て中の負担・不安
- ・自身の子育てについての評価
- 配偶者との役割分担

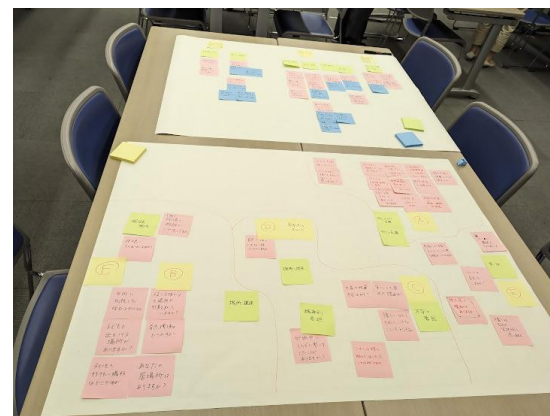
■子どもの人数等について

- ・理想の子ども的人数



インタビュー調査での気づき

- ・矢掛町は色々な施設がコンパクトにまとまっている
- ・父親は経済的不安, 母親は育児家事の手の足りなさを感じている
(男性と女性の意識の違い)
- ・転入者は周囲との繋がりが弱く孤独に子育てをしている
- ・家事・育児は“やれるほうがやる”が成功の秘訣
- ・「産む不安」「育てる不安」が強い



目指すべき地域の状態

困った時にいつでも育児支援・家事支援を利用できる環境が整っており、安心して子供を育てることができる環境がある

住民の声から見えてきた解決課題 (対応策の方向性)

**周囲との繋がりが弱く
孤独に子育てをしている**

➤ 親子がいつでも自由に出入り
する事ができる場所・居場所
が必要

参考となる住民の声

- ・悩みを話せる強制的な場所がある方が嬉しい
- ・土日に支援センターが空いていたらと思う。
- ・ママ友は勝手にできると思っていた。
- ・自分から繋がりを作っていくのは難しい。

住民の声から見えてきた解決課題 (対応策の方向性)

**母親は育児・家事の手の
足りなさを感じている**

➤ 困った時にいつでも育児支援
や家事支援を利用する事がで
きる体制が整っている環境が
必要

参考となる住民の声

- ・2人で手がふさがっている。3人目は厳しい。
- ・1人で複数の子を見るのは無理。
家事代行を使いたい。
- ・仕事と家事の両立は大変

住民の声から見えてきた解決課題 (対応策の方向性)

家事・育児はやれるほうがやる

➤ 共働きが多く、仕事と育児を
しながら家事が回らない。父親
と母親が協力して育児を行う
環境づくりが必要

参考となる住民の声

- ・我が家の家事は1:9で本当に夫は何もしない。
- ・子ども2人に加えて夫まで育てなきゃいけない
だろうとイライラすることも増えてきた。
- ・夫は子どもと関わってくれる時間を作ってくれ
ば十分。
- ・ちゃんと分担ができているから、不満は無い。

解決課題を踏まえた最終事業案（Day5~6）

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

ようこそ晴れの国 おかやまへ



Okayama Prefecture

住民の声から見えてきた解決課題 （対応策の方向性）

親子がいつでも自由に入出入り
する事ができる場所・居場所
が必要

開発した事業案

子育て支援センター等での
イベント実施

子育て支援センター日曜日開所

こども食堂の実施

親子の料理教室

高齢者と子育て世帯の交流の場づくり

住民の声から見えてきた解決課題 （対応策の方向性）

困った時に、いつでも育児支
援や家事支援を利用する事が
できる体制が整っている環境が
必要

開発した事業案

子育て支援サポーターの養成

子育て世帯タクシー券助成

病児保育の整備

やかげnabi（アプリ）の活用

一時預かりの曜日の拡充

住民の声から見えてきた解決課題 （対応策の方向性）

共働きが多く、仕事と育児を
しながら家事が回らない。父親
と母親が協力して育児を行う
環境づくりが必要

開発した事業案

家事育児シェアシート作成

パパの半日こども園体験

保育園での弁当販売

パパ育児教室の開催



事業アイデア開発の様子 (Day5~6)

STEP1

STEP2

STEP3

STEP4

STEP5

STEP6

ようこそ晴れの国 おかやまへ



Okayama Prefecture



事業案名 子育て支援サポーター養成事業

事業の趣旨および必要性

町内で活動している子育て支援サポーター（シルバー人材センター会員）が、家事支援や育児支援のノウハウを学ぶ機会を作り、今後の活動に活かせるよう支援する。

子育て支援サポーターの利用増に向け、受け皿となるサポーターの会員を増やす。

事業の内容

- ▶ 子育て支援サポーターとして活動している人、これから活動していく人に向けた、子育てに関する講座やグループワークを行う。（全五回程度）

内容は、

- ・今の子育て事情について学ぶ
- ・家事支援・育児支援についてのノウハウを知る
- ・サポーター同士の交流を持ち、他の人の活動内容を知る



今後の活動に活かしたり、子育て支援センター開所時の託児等で活動してもらえよう、働きかけていく。

事業案名 子育て支援センター等でのイベント実施事業

事業の趣旨および必要性

土日の親子の居場所づくりや、保護者同士の交流の場をすることにより、子育てにおける不安感や負担感を軽減させる。矢掛町での子育てが楽しいと感じてもらう。

事業の内容

- ▶ 子育て支援センター等の町内の施設を利用した親子イベントを実施し、交流の場・居場所づくりを行う。
年4回竹を使ったワークショップや昼食作り（羽釜ご飯やソーメン流し）等のイベントを実施
- ▶ 子育て支援センターで母親交流事業を実施
「親子の絆づくりプログラム」を実施し、子育ての悩みや不安を保護者同士で共有する。
（就学前の子を育てている母親向けの育児プログラム 全5回）



※実施については県内NPO法人へ委託



子育て支援センターの日曜日開所や、矢掛町に子育て支援拠点の設置等も検討していく。

令和5年4月1日から制度開始

- ▶ 実施主体：矢掛町（矢掛町シルバー人材センターへ事業委託）
- ▶ 委託内容：家事支援，育児支援，子育て相談
元々は，ヤングケアラーへの支援や虐待予防を目的として開始したが...
- ▶ 実績
R5年度：申請者4名 利用1名
内容：妊婦検診への同行
R6年度：申請者3名 利用3名
内容：引っ越し手伝い，乳児の見守りなど

課題1

利用者（子育て世帯）と子育て支援サポーター（シルバー登録者）とのマッチングが上手くいかない

課題2

シルバー人材センターの登録者が少ない...

→ バックアップ事業で出た課題や住民の声とも課題が一致

矢掛町子育て支援サポーターのご案内

矢掛町では、育児・家事等に困難を抱えている家庭を対象に子育て支援サポーターの派遣を行っています。

支援内容

1. 家事支援（買い物、調理、掃除等）
2. 育児支援（沐浴補助、オムツ替え補助等）
3. 子育て相談

▶▶ 子どもの送迎は対象外です。

利用料・利用時間

- ▶ 料金：1時間あたり、500円
（1回の訪問につき2時間まで、1家庭20回まで）
※買い物等で発生した費用は、利用者の自己負担
※生活保護世帯は無料
- ▶ 時間：月～日曜日 8:30～17:00（要相談）
年末年始（12月29日～1月3日）は除く

対象者

- ▶ 矢掛町に住所があり、産前産後（産後1年未満）の妊産婦のいる家庭
 - ▶ ひとり親、保護者の心身の病気・疾病等を有する家庭
 - ▶ 他の親族の援助等が受けられず、育児等に困難な事情を抱える家庭
- ▶▶ 申請時に詳しく聞き取りを行います。

注意事項

- ▶ この事業は、子どもを養育されている保護者の子育て支援を目的としています。
- ▶ 保護者がご不在の状態で、サポーターが1人で子どものお世話や子守り等を行うことはできません。

事前に役場健康子育て課で利用相談・申請が必要です。
利用決定後打ち合わせ等を行い、利用開始となります。
（※家庭状況等によって、利用ができない場合があります。）



≫ バックアップ事業で事業化を検討後、事業を受けてくれる事業者を検討。

N P O 法人 岡山事務支援センターへ業務委託

講師はN P O 法人おかやま妊娠S O Sしえるとの助産師へ依頼

地域で活躍されている方はまだまだいるはず...!!

≫ 令和6年6月～参加者募集開始→栄養委員、民生委員、地区の公民館、愛育委員など
地域で活躍されているシニア世代の場へ足を運び、参加者を募った。

↓
合計14名の方から参加申し込み受付
※年齢層は59歳～88歳
女性13名、男性1名

≫ 9月6日（木）～10月日（水）にかけて全5回の講座を実施中
受講後は、町長から終了証の交付とシルバー人材センターへの登録を案内予定

🌸 講座受講者の声

- ・どこまで出来るか分からないが、子育てを応援したい。
- ・相手（パパやママ）のある事なので、しっかり気持ちを受け取って支援できれば良いと思った。
- ・子育ての昔と今について、リアルな体験をまじえて話されたので、より身近に感じた。



令和6年5月～12月にかけて年4回のイベントを実施

- ▶ 実施主体：矢掛町（岡山県内NPO法人へ事業委託）
- ▶ 委託内容：こどもみらい学校 竹を使って親子で遊ぼう！inやかげ
竹を使ったワークショップ
保護者同士・参加者同士の交流の場を作る

- ▶ 実施場所：桃源郷はなしの里（矢掛町上高末）

実績

第1回目：	6月 1日（土）	竹コップ，はし，竹ぽっくりづくり
第2回目：	7月20日（土）	竹の水鉄砲，竹で流しそうめん
第3回目：	9月21日（土）	竹灯籠づくり
第4回目：	12月21日（土）	竹で門松作り，餅つきを予定

課題

事業の効果検証及び，来年度以降の実施方法等についての検討が必要

こどもみらい学校

竹 を使って 親子で遊ぼう！

アウトドア好き・工作好きのやかげっこ集合！
竹を使った家族で楽しめるワークショップを
春夏秋冬の年4回開催します！

第1回目

竹コップ・はし
竹ぽっくりづくり
＆羽釜ご飯と豚汁づくり

2024年 会場
6月1日（土） 桃源郷はなしの里
9:30～14:00（9:00受付） 小田部矢掛町上高末3749 / メール hanasiland@gmail.com

昼食付き！（羽釜で炊いたご飯と豚汁）

対象 矢掛町在住の年中児～中学生（保護者同伴）
定員 20名＋保護者
持ち物 飲み物、軍手、日よけ帽子、動きやすく汚れてもいい服装
お米ひとり0.5合（持ち寄っていただき、羽釜でご飯を炊きます）
主催 矢掛町 こどもみらい学校inやかげは、町内の親子同士の交流、他の保護者やこども同士の交流を目的として、矢掛町がNPO法人こうのさとへ委託し、行う事業です。

参加無料
雨天決行

お申し込み

子育て中の親子のみなさまご参加をお待ちしています！
QRコード先のフォームから
お申し込みください
※キャンセル期限：開催前々日まで

お問合せ
▶矢掛町こどもみらい課
0866-82-1060（担当：長代、原田）
▶NPO法人こうのさと
info@konosato.org（担当：中村）

年4回実施予定！他の内容は裏面をご覧ください

令和6年11月～12月にかけて全5回の講座を実施予定

- ▶ 実施主体：矢掛町（岡山県内NPO法人へ事業委託）
- ▶ 委託内容：親子の絆づくりプログラム～幼児とともに！～
就学前の子を持つ母親向けの講座を全5回実施
（保護者同士の交流や仲間づくり，子育ての相談
子育てについての悩みについての共有など・・・）

▶ 実施場所：矢掛町子育て支援センター

▶ その他：実施にあたり，託児が必要（こども2人につき保育者1名）

町職員だけでは対応困難だったため，地区の愛育委員へ依頼。
1回の講座につき2名の愛育委員がボランティアとして従事予定
で調整中。

1歳～就学前の
子どもを育てる
母親向け講座

親子の絆づくりプログラム ～幼児とともに！～

最初から一人前の親はいません。子どもを育てながらまた、まわりのサポートを受けながら少しずつあなたは親になっていくのです。完璧な親なんていないのです。完璧な子育てがいいわけでもないのです。大事なポイントをしっかりと覚えて70点くらいの子育てが子どもにとっても親にとってもちょうどいいのです。



○内容		
令和6年 11月11日（月） 新しい出会い	2回目 11月25（月） 子どもとの関わり方	3回目 12月2日（月） 子どもの心の 発達としつけ
4回目 12月9日（月） 私のストレス	5回目 12月16日（月） 親としてよりよく 生きる	※5回講座 5回全て参加で達成できる プログラムです。

対象 1歳以上、就学前の子どもを育てている母親で全日参加できる方
（平成30年4月2日以降に産まれた子どもさん）

場所 矢掛町子育て支援センター（小田郡矢掛町西川面1376-8）
駐車場あり

定員 20組

時間 各回午前10時00分から12時00分

参加費 無料 テキストは期間中無料貸出しします

託児 無料 場所 矢掛町子育て支援センター内プレイルーム

締め切り：令和6年10月31日（木）
※定員になり次第締め切らせていただきます。

申し込み先：矢掛町役場 こどもみらい課
TEL 0866-82-1060



主催：矢掛町役場 こどもみらい課
共催：NPO法人きよね夢てらす 子育て応援っこ



今後の事業展開について

- ・全事業実施後に効果検証を行う。現時点で、現代の子育てについて関心のあるシニア世代が一定数いる事が判明したため、孫育て講演会や、同様の講座の実施、孫育て手帳の更新等を検討する。
- ・子育て支援サポーター派遣事業制度の支援内容の充実を図る（支援拡充を目指す）
- ・子育て世帯の居場所づくりや、料理教室等、子育て世帯以外を巻き込んだ事業を検討していく。

少子化対策に挑戦する市町村バックアップ事業に参加してみたの成果と課題

参加してみたの気づき・学び・成果

- ・来年度に向け、具体的な事業実施を行うための準備ができた！
 - 補助金や他県で先進的に行っている情報提供，NPO等各種団体への繋ぎ等，岡山県の方が全面的にバックアップしてくださった。
 - 県職員，NPO，地域住民の方との繋がりができた！
- ・他課の事業について知る良い機会になった！
 - 少子化対策は，子育て世帯だけの問題ではないことに気付いた！幅広い年代へのアプローチが必要。
- ・楽しんでインタビュー調査ができた！
 - 高齢者が増えているが，元気なシニアも多いので，積極的に活用ができるのではないか...と気づく事ができた。

参加してみたの課題・苦労点

- ・参加メンバーへの声掛けやメンバーの確保
 - どの職員也多忙なので，出張をお願いしづらかった。
- ・こどもみらい課だけでは不可能な事が多い
 - 子育て世帯に関する情報や制度はすぐに分かるが，他の制度や事業との連携を行うためには，他課連携が欠かせない。
- ・新たに実施する事業の効果検証をどうしていくか？
- ・来年度以降，どのように事業展開していけばよいか...という新たな課題も。

